

「見守り」というと何をイメージしますか?食事をしている時に見守る、ご利用者同士でトラブルが起きないように見守る、センサー・機器を使って安否や状態の確認を行うなどでしょうか。「見守り」の意味が施設内で共通認識になるように、しっかりとコミュニケーションをとることがあらゆるリスクの低減に繋がります。

## ■見守られる高齢者の行動・特性の把握

ご利用者の1日の行動を理解することは、危機管理の面からも大切なことです。

新職員も増える春、ご利用者の行動を書き出して整理・共有することから

始めてはどうでしょうか。



下記はとある施設のご利用者Aさんの一日です。何を見守り・どこまでサポートするのがいいのでしょうか。

午前	8:00 起床	自分でできること ベッドから起き上がる。 見守り・サポート 声かけを行う。	14:00 入浴	自分でできること 湯船にまたがって入る。 見守り・サポート 洗髪・洗身介助。 湯船の出入り時の見守り。
	トイレ	自分でできること 排泄の訴え、ナースコール、 バーにつかまって立位をとる。 見守り・サポート ズボンの上げ下ろしの介助 コール忘れあり、注意。	余暇	自分でできること 箸を使って食べる。 見守り・サポート 食事が進まないとき声かけ。
午後	8:30 朝食	自分でできること 箸を使って食べる。 見守り・サポート 食事が進まないとき声かけ。	18:00 夕食	自分でできること 居室内での伝い歩き。 見守り・サポート 居室で過ごしたいのでドアを開放し、様子確認とれるように。
	服薬	自分でできること 自分のペースで服薬する。 見守り・サポート 漢方薬は苦手。要オブラート。	21:00 就寝	自分でできること パジャマの更衣。 見守り・サポート 睡眠薬内服。就寝の声かけで問題なければトイレ誘導後入床介助。
	12:00 昼食	自分でできること 箸を使って食べる。 見守り・サポート 食事が進まないとき声かけ。	22:00 ~ 6:00 巡視	自分でできること 何かしたいときにナースコールで夜勤の職員に連絡できる。 見守り・サポート ナースコールでの要望に対応。1時間おきに巡回。 トイレの訴えが多く、独歩で居室から出ていくことがあるので注意する。
	13:00 口腔ケア	自分でできること うがいをする。 見守り・サポート 義歯清掃、コップの手渡し。		

見守りにおいては、職員の不足と負担感(特に夜間)、介護の質・環境、「干渉されたたくない」という利用者感情などの難しさがあります。ご利用者の気持ちに配慮しつつ効率的で効果的な見守りができるよう、日々の行動や体調の把握に努め、バイタル情報も含めた総合的な見守りを構築していきましょう。

最近はセンサーなどの機器を使った見守りも普及してきており、導入を検討してみるのもひとつではないでしょうか。